

わがまち紹介



筑西市

チーム筑西で
キラリと輝く筑西市へ

2つの柱でまちづくり

今年(2025年)4月に市長に就任しました。市政運営の柱として、「Think Globally, Act Locally ～地球規模で考え、地元から行動する～」と「ジェンダー平等の確立」の2つを掲げています。

わたしが選挙公約に掲げた「筑西しあわせ夢プラン77」は、市民の皆さんの声に耳を傾けて作成した政策目標です。非常にチャレンジングな内容ですが、できない理由を考えるよりも、どうすればできるかを、職員の皆さんと市民の皆さん、議会の皆さんとともに考えながら前に進めていきたいと思っています。

特に、ジェンダー平等に関して、茨城県には3つの全国ワースト2位があります。1つ目は「男女の賃金格差」、2つ目は「男女の育児家事の参加時間の差」、3つ目は「男性の未婚比」です。

この状況を本市から改善し、ジェンダー平等を確立していきたいと考えています。まずは、市役所から男性の育児休業や介護休暇の取得率向上を目指し、「イクボス宣言」などの施策に取り組む予定です。

2つの市政運営の柱のもと、「筑西しあわせ夢プラン77」に掲げた施策を実行することで、「命を守り育む」「子どもたちの夢を地域全体で育む」「農業や産業を更に充実させて儲かる筑西市を創る」といった目標を「チーム筑西」として実現し、本市を世界の中でキラリと輝く市にしたいと考えています。

命を守り育む

直近(2022年12月31日現在)の調査によると、茨城県の人口10万人あたりの医師数は、212.3人で全国



株式会社筑波銀行
筑西支店長
木村 正幸

筑西市長
設楽 詠美子氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県筑西市です。筑波銀行筑西支店長 木村 正幸が筑西市長 設楽 詠美子氏にお話を伺いました。

ワースト2位です。また、県内9か所の二次医療圏において、本市を含む筑西・下妻医療圏の人口10万人あたりの医師数は127.4人で県内ワースト3位と、この地域の医師不足は長年の課題となっています。

こうした状況のなか、市民の「命を守り育む」という視点から、医師の確保や診療体制の充実に取り組んでいます。

たとえば医師不足への対応としては、地元医師会や茨城県西部メディカルセンター、地域の病院と連携した新たな取組を検討していきたいと考えています。

「筑西しあわせ夢プラン77」の目標に『病院づくりはまちづくり』の実践』と掲げたように、本市の医療のあり方は、若い世代が本市に家を建てたり、移住したりするかどうかを決める重要なファクターになると思います。若い世代が家を建てるならば、小児医療が充実している地域に建てたいですね。若い世代がこの地域に住んだときに、安心して子育てができるまちづくりという視点からも、医療体制の充実を図っていきます。

健診分野では、今年4月に県西部メディカルセンター敷地内に「ちくせい総合健診センター」がオープンしました。人間ドックと健康診断を拡充することで予防医療の強化・充実を図り、健康寿命の延伸に貢献することが期待されています。



ちくせい総合健診センター

子どもたちの夢を地域全体で育む

本市では、「子どもの権利条例」の制定を計画しています。条例には子どもたちの意見を反映させることが大切だと考え、ワークショップなどで子どもたちと意見交換しながら、一緒に作っていききたいと思っています。

加えて、地域で子どもたちを育むという観点から、地元農業者の協力を得ながら有機栽培の米などの農作物を作り、オーガニック学校給食を実現したいと考えています。県西地域ではまだスタートできていませので、本市が先陣を切って始めたいと思っています。

儲かる筑西市を創る

本市は西部を鬼怒川、東部を小貝川が南下し、肥沃な田畑が広がっています。米や野菜、果樹と多種多様な作物が生産され、安全・安心で質の高い農産物を食べることができます。いつでもおいしく、健康的な食事ができることは、とても幸せなことだと思います。

日本の食料自給率は37%(2020年度)ですが、本市の自給率は米の収穫量のみで市民全員の年間必要カロリーを優に超える高い水準です。麦類、そば、梨、こだますいか、きゅうりの産出額は2023年に茨城県内1位、米といちごは2位と県内有数の産地となっています。また、梨やこだますいか、いちごなどは品質でも高く評価されています。

課題は、そうした農作物のブランディングが十分にできていないことです。そこで、たとえば「梨といえば筑西市」と認知してもらえるように、本市の農産物を付加価値のある商品として市内外に発信し、ブランド力を高めていきます。そして県内外、さらに世界に売り出すことで収益力を高め、儲かる農業を確立していきたいと考えています。

加えて、環境にやさしい農業による農作物の生産を拡大したいと考えています。有機栽培の梨といちごは特に需要が高く、茨城県の補助事業もあります。本市からも手を上げる農業生産者が出ることを期待しています。

儲かる農業の実現は、農業後継者や市外からの新規就農者の増加にもつながると思いますので、市としても積極的に応援していきます。

企業誘致と雇用確保に取り組む

本市に立地する企業は、本市産業の一翼を担う大切な存在です。企業誘致を積極的に進め、雇用の創出や地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。



農業の盛んな筑西市

企業誘致の課題の一つは、本市には開発公社がなく、事業用地の確保が誘致の前提になることです。本市の9つの工業団地は、すべて茨城県開発公社の協力により整備されたもので、現在のところ空き区画がない状態です。

できるだけ進出を希望する企業側のニーズに応えられるように、新しい工業団地の造成に向けた適地調査を行ったところです。

また、すでに市内に立地している企業については、定期的にフォローアップを行っています。丁寧にニーズをうかがい、たとえば工場拡張にともない用地が必要となった場合などのニーズに応じていきたいと思っています。

雇用の確保については、これまでも市内外の高校生などを対象に市内企業を紹介するバスツアーを実施してきました。また、市内企業の事業情報や求人情報を発信するWEBサイト「ワークステーションちくせい」を運営し、市内の雇用促進、市内企業のPR、企業間のビジネスマッチングを支援してきました。

さらに、今年度からの新規事業として、合同企業説明会を開催する準備を進めています。市内のさまざまな業種の企業が一同に会し、各企業がPRを行うことにより地元企業の魅力を伝え、若者などの就労支援を図ることが目的です。

本市には魅力ある企業がたくさんあります。わたしも市長に就任して企業の方々とお会いする機会が増える中で、誰もが知っている製品の大半を製造している企業が本市に立地していることなど、大きな発見がありました。こうした地元企業の魅力を伝え、地域の若者などの流出を止め、UIターンを促す取り組みを強化していきます。

道の駅を拠点とした観光振興

「道の駅グランテラス筑西」は、年間100万人以上の来場者を迎え、多世代が楽しめる地域のランドマークとして、多くの皆様から好評を得ています。

現在、魅力拡大に向けた拡張整備事業を進めているところです。具体的には、市民や利用者から要望の多かった「駐車場の拡張」と「インクルーシブ機能を兼ね備えた遊具施設の拡充」を進めることで、利便性の向上と多世代にとって親しみやすい空間の提供を目指します。

また、多機能型観光マルチデジタルサイネージを設置し、市内の観光やイベント情報をわかりやすく提供するなど、道の駅を観光情報発信や市内周遊の拠点として位置づけることで、さらなる本市観光の振興や地域活性化に取り組んでいきます。

2024年4月には、JR下館駅周辺のにぎわい創出を

目的に、中央図書館東側広場に「まちなかチャレンジショップ CAFE28+」をオープンしました。この施設は図書館利用者のほか家族連れや高校生、市外からの訪問者など幅広い層から支持を受け、駅周辺のにぎわいづくりや交流人口の増加に貢献しています。

また、今年4月にJR下館駅北口前の無料休憩所「ちくくんステーション」をリニューアルオープンしました。誰もが利用しやすいように、入り口の扉や室内の壁紙、テーブルなどを一新して明るい雰囲気になりました。自由に弾くことのできる黒色のピアノは、茨城県立下館第一高等学校の生徒のアイデアで、障がい者アート作品によるカラフルなラッピングへと変わり、評判となっています。

デジタル技術の活用にも力を入れています。デジタルマップで展開するスタンプラリーの開発やAR・VR技術を駆使した体験型コンテンツの整備により、観光スポットや祭り・花火などのイベント、紅葉など本市の多彩な観光資源への誘導を促進します。

加えて、地域協定を基盤とした観光PRにも取り組んでいます。観光パンフレット「るるぶ特別編集筑西市」を活用し、本市の魅力を市内外の方へわかりやすく伝える取り組みを進め、主要拠点での配布やSNSを活用したプロモーションによって若者やファミリー層の関心を引き寄せています。

今後は、新しくできた「まちなかチャレンジショップ」を中心に公共施設と連携したイベントも企画し、地域活性化と交流人口の拡大につなげていきたいと考えています。



まちなかチャレンジショップ CAFE28+

筑波銀行に期待すること

筑波銀行様には幅広いネットワークや多方面分野に関する知見がありますので、本市へ進出を希望する企業の情報など、本市のまちづくりに関する情報を提供していただきたいと思っています。また、市内の支店の皆さんが市のイベントに参加していただくなど、チーム筑西として一緒に地域の活性化に取り組んでいけたらよいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(取材日:2025年7月23日)

筑西市



わがまちの 農産物

茨城県内 **No.1!**

筑西市は広大な平野と豊かな水に恵まれ、野菜や果物など農産物の宝庫です。今回は、そのなかでも茨城県内1位*の産出額を誇る農産物を紹介します。

* 令和5年(2023年)市町村別農業産出額(推計)詳細品目別データ

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

常陸秋そば



夏に白い花が咲き、秋に収穫を迎える「そば」。筑西市のそばは、生産量が多いだけでなく、香りや風味、甘味も良いのが特徴です。市内には地粉を使ったそば粉、生そばの販売を行う直売所のほか、ひきたて、打ちたてのそばを味わえる店舗もあります。

梨



筑西市は、江戸時代から続く梨の一大生産地。茨城県の銘柄産地にも指定され、みずみずしい果肉とさわやかな甘みが特徴で、市のブランド認証を受けています。夏の「幸水」からスタートし、秋の「豊水」「あきづき」「新高」と、8～10月頃まで品種が変わりながら出荷が続きます。JA 部会等では、茨城県オリジナル品種「恵水」の生産や新しい栽培技術の導入に力を入れています。

きゅうり



筑西市の「きゅうり」は、形も歯ごたえもよく、関東では貴重な産地として高い市場評価を受けています。特に冬から春にかけて収穫されるものは茨城県の銘柄産地指定を受け、幅広い料理や加工品に使われています。

こだますいか



品種改良により生まれた「こだますいか」。冷蔵庫に収まるサイズで皮が薄く、12～14度の高い糖度とシャリシャリとした食感が魅力です。市内協和地区は、国内でも有数の産地として茨城県の銘柄産地指定、市のブランド認証を受けています。出荷は毎年3月上旬からはじまり、5～6月にピークを迎えます。